



“老若男女、年齢問わず楽しめる”

ソフトボール競技の魅力

田中 啓一 (たなか けいいち) 氏

平成2年、ご子息の市内小学校育成会ソフトボールチーム入会を契機に自らも指導者として携わったのをきっかけに、平成14年からは監督、その後審判資格を取得し、市内各所で活動しています。ソフトボールは子どもだけでなくご高齢の方まで楽しめるスポーツのため、指導育成を通じて競技の普及に取り組んでいます。

ソフトボールの指導をはじめられたきっかけを教えてください

30年ほど前の話になりますが、息子が小学校5年生の時、市内小学校の育成会ソフトボール大会に参加することになり、指導者が不足していたことからお手伝いをしたことをきっかけに指導を始めました。

活動(指導)している中で意識している事を教えてください

初めてボール、バットに触れるのが大半で、「投げる、捕る、バットを振る、打つ、ルール」を基本から教える必要があります。難しく根気が必要です。また、言葉使い(パワハラ)、躰に触れる(セクハラ)等には注意をして、事前に断りをいれてから触れる等、子どものモチベーションを損なわないようにいかにするか、指導以上に配慮を心掛けて子どもたちと向き合っています。

活動(指導)している中で嬉しかったことや印象に残っている事を教えてください

練習を重ねていくうちに上達し練習でできなかったことが、試合で見事なプレイを見させてもらうこともあり、勝ったことの喜び、負けたことの悔しさを共有して指導者としてやりがいを感じています。更に、

小学校を卒業した後もソフトボール、野球を続けてくれたり、また社会人になってから大人のソフトボールチームに加入して活躍する方が増えてきて頼もしい限りです。

ソフトボールという競技の魅力を教えてください

軟式野球と違い投手間、塁間の距離が短いためスピード感があり、スリルがあります。参加者年代別の競技も行われ年齢を重ねても楽しめ、続けられる競技です。また、ここ数年前から参加しているジョイフルスローピッチソフトボール競技(投手が山なりボールを投げて打つもので少し軟らかいボールを使う)は、ルールが一部異なりますが、高齢者でも非常に楽しめる競技です。

地域におけるソフトボール競技の今後についてどのようにお考えですか

各小学校育成会のソフトボールへの参加者が少なくなってきたことや、各校単独チームでの出場が困難な状況になってきていますので、参加者を増やす取り組みを関係者と協力して、今後も継続した活動ができるようにと願っています。

2028年ロサンゼルスオリンピックの競技に「野球・ソフトボール」

が復活しましたので、機運が盛り上がっていくことに期待したいと願います。

最後に一言お願いします

自分も好きで続けている競技ですので、今後もソフトボールの仲間(子どもも大人も)と楽しみながら携わって行きたいと思っています。



▲平成30年度ジュニア育成地域推進事業
ジュニア育成・小学校ソフトボール大会(国立市ソフトボール連盟主催)
田中さんは審判員として参加されています。